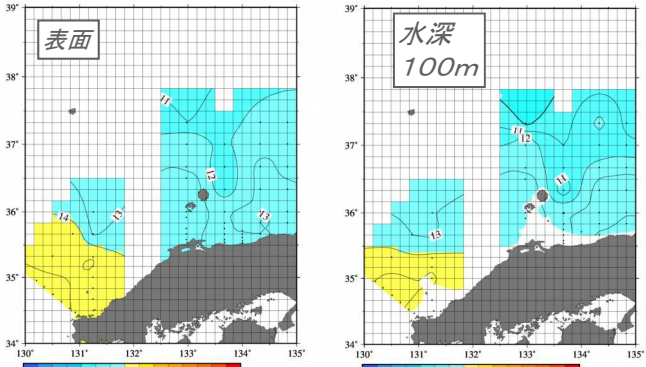
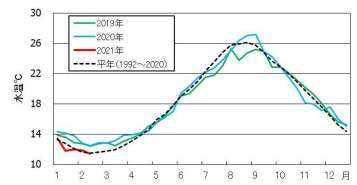




## 鳥取沿岸の水温

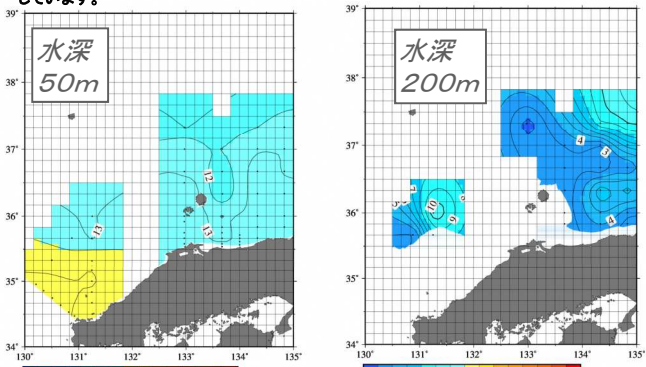
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽  
(電話:0858-34-3321)

2月中旬 11.4℃  
平年より 0.1℃低め



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域の水温は12～13℃で、平年(直近20年)並みの値を示しています。

水温は12～13℃を示し、平年並みの値となっています。



水温は12～13℃を示し、平年並みの値を示しています。

兵庫県西部沖北緯37°10'以北と山口県沖北緯35°40'付近にそれぞれ8～11℃、8～10℃を示す暖水域があります。

### 水産試験場

#### アオナマコ資源調査の状況

境港の美保湾では、アオナマコの漁獲量が近年減少しています。そこで、水産試験場では、美保湾における資源状態の把握および資源管理方法の確立を目的とした予備調査を、昨年度から着手しています。

昨年度に引き続き今年度も、産卵の特徴を把握するため、産卵期と考えられる4～6月にかけて色々な大きさのアオナマコ144個体を採集し、生殖線重量を測定しました。

その結果、4月下旬に生殖線指数(体重に占める生殖線重量の割合)が大きい個体が、体重500g以上で見られ、このサイズから産卵を開始する可能性があることが考えられました。

京都府に生息するアオナマコは、150gサイズから産卵開始するとされており、異なる結果となりました。これらの生態情報を考慮し、適切なアオナマコの資源管理方法を確立するため、引き続き調査を続けていきます。



アオナマコの体重と生殖線指数の関係(4～6月) アオナマコの内臓と生殖線

#### 令和2年度第2回境港地区漁海況連絡会議を開催します。

沖合漁業における水産資源の動向や今後の漁様様についての説明会を下記のとおり開催します。

※なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止とする場合があります。

#### 記

日時 令和3年3月26日(金) 午後1時30分から午後3時まで

場所 みさき会館(鳥取県境港市昭和町9-20)

内容 1. 海洋環境等の見直しについて 2. 浮魚類の見直しについて 3. 底魚類の見直しについて

海洋環境、スルメイカ  
マジ・マサバ・マイワシ、クロマグロ  
ズワイガニ・ハタハタ・アカガレイ・ソウハチ  
マダラ、ベニズワイガニ

令和2年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

## 西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136  
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424  
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

# 潮に夢を

## 共和水産株式会社

代表取締役 岩田 祐二

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地  
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

### 2月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥取県沖の冷水域	12℃以下冷水の一部が、隠岐諸島北東36°40'以北に張り出しています。
鳥根県・山口県沖の冷水域	10℃以下冷水域が、隠岐諸島北緯37°以北に認められます。鳥根県・山口県沖では13℃以下冷水域が北東35°30'以北に認められます。
山陰沖合域の対馬暖流 流路	鳥根県・山口県沖の13℃等温線に沿って北東に向かい流れると考えられます。その後、隠岐諸島北東に張り出した12℃以下の冷水に沿って東方に向かう流れと、南東に向かう流れが認められます。

\*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています、是非ご利用ください。

### ★水産課からのお知らせ★

#### 第21回水産研究・実践活動報告会(ご報告)

令和3年2月10日、新日本海新聞社中部本社ホールで第21回水産研究・実践活動報告会を開催しました。漁協や市町村等から多くの関係者が集まり、令和3年度水産関係予算の説明、県内の水産分野の取り組み報告が行われました。参加者からは意見や質問も多数あり、今後の水産業の活性化に繋がる貴重な機会となりました。

参加できなかった方でも、疑問や質問などありましたら遠慮なくお問い合わせください。(担当:門脇 電話:0857-26-7317)

#### 【報告会の内容】

- ・令和3年度水産関係予算説明会
- ・第21回水産研究・実践活動報告会  
(1)スマート漁業推進事業について  
- 漁師の皆さんと作る「海の天気予報」 - 鳥取県水産試験場 磯岡研究員
- (2)長和瀬漁港におけるウニ養殖の取り組みについて  
鳥取県漁業協同組合 善谷支所 中村氏(漁業者)
- (3)改正漁業法による新しい資源管理について  
鳥取県水産課 松田係長
- (4)シャーベットの冷却・鮮度保持効果  
鳥取県環境水産事務所 志村係長
- (5)キジハタの放流電数の見直しについて  
鳥取県栽培漁業センター 西村研究員
- (6)コロナ禍での魚食普及の取り組み(県からのお知らせ)  
鳥取県水産課 宮道係長



ウニ養殖の取り組み報告



シャーベットの紹介

### 栽培漁業センター

#### 2020年の沿岸主要魚種の水揚げ結果

米子市漁協を除く速報値による総水揚げ量(金額)は過去最低の3,468トン(21.5億円)となりました。沿岸主要魚種の水揚げ量を表にまとめたところ、直近5カ年平均に対して、2020年は軒並み減少しました。特に前年からの減少が顕著なサワラは、冬季(1-3月)の刺網漁の不調が原因で大きく減少しました。なお、美保湾で越冬する群れの規模により、刺網の好不調があると考えており、今漁期も若狭湾で主群が越冬する見込みであることから、本県の刺網は不調になると推測しています。ケンサキイカ(白いか)は秋イカ(季節型のブドウイカ)が全くと言って良いほど水揚げされなかったため、こちらも減少しています。また、ヒラメも過去2番目に少ない水揚げ量(金額だとワースト)となっています。

魚種	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2015-19年平均	直近5年比
スルメイカ	1,984	1,539	1,268	973	722	901	1,297	70%
ブリ	1,098	593	591	607	478	538	673	80%
サワラ	513	434	480	907	881	368	643	57%
ケンサキイカ	473	307	281	358	167	101	317	32%
あじ類	295	337	242	246	203	203	265	77%
イワガキ	183	167	164	134	82	79	146	54%
とびうお類	153	124	129	131	114	72	130	55%
サザエ	125	148	122	115	122	99	126	78%
かわほぎ類	171	118	100	58	46	63	99	64%
ソデイカ	3	126	69	111	24	37	67	55%
ヒラメ	16	24	12	34	75	91	32	281%
カンパチ	1	1	2	2	2	8	1	608%
ヒラメ	51	49	31	35	35	25	40	61%